どんぐりの森通信　第10号　2005年12月

今年も残り少なくなってきました。０５年後半の活動をまとめた『どんぐりの森通信』第 10 号をお届けします。この１年、『平岡どんぐりの森』にも、さまざまな自然や人との出会いが、そして別れがありました。
私たちの活動はささやかなものですが、これからも身近な自然に親しむことを通じて、地域の自然と生きものたちを大切に見守る目を増やしていけたらと願っています。
活動に参加してくださった皆さん、ご協力いただいた方々、どうもありがとうございました。
来年もどうぞよろしくお願いいたします。

7 月～12 月の活動から

● ながぐつの土曜日

7 月 16 日(土) 夏の森たんけんたい

夏の『ながぐつの土曜日』は大曲川の水辺で遊びます。東部緑地の集合場所には、バケツや網を手にした子どもたちが十数人集まりました。みんな早く水に入りたくてウズウズしているので、真っ直ぐ川に向かいました。途中、森のはずれで特大のクワガタを発見！大きな歓声が上がりました。ゆうさん手製の観察ケースに入れて、じっくり見てから木立に戻しました。

昨年の台風で倒木があちこちで流れをせきとめたり、淵ができたりして川の様子が変わりました。横倒しになった木から真っ直ぐ上に向かって伸びた枝が何本もあって、その生命力に驚かされます。

川岸には前日の夕方、数箇所に「どう」を仕掛けて置きました。引き上げて見ると、かかっていたのはフクドジョウ 2 匹とイバラトミヨ 2 匹。ちょっと少なくて残念でしたが、イバラトミヨは 2 匹とも産卵前の♀でお腹に卵を抱えていました。トンギョ（トミヨ）の仲間は水中に巣を作って卵を産みます。どんな巣なのか見てみたいね、と子どもたち。そのあとタモアミを持って川に入り、魚を探しました。

お昼近くなってお腹がすいた頃、ヤキイモができあがりました。倒木の上に並んで腰掛けて、ほおばります。美味しかったですよ！

8 月 20 日（土） 夏休みスペシャルお魚たんけんたい

夏休みはちょっと遠出、大曲川と野津幌川の合流点で魚を探してみます。魚道ができて 3 年、厚別東通りの開通と川沿いの住宅地造成で大曲川下流の様子は大分変わってきました。合流点付近には堆積した土砂の上に柳が生長し、木陰を作っています。お魚は増えたかな?

曇り空でちょうど良い暑さ（?）の下、大人･子ども合わせて 32 名の参加者はタモアミや大きな三角アミ、バケツなど各自お気に入りの道具を手に、流れに入りました。魚道脇の壁ぎわでは胴付きを着たお兄さんと子どもたち数人が協力して、魚追い込み作戦。木陰のよどみにはフクドジョウもたくさんいました。初めて自分のアミで魚をすくった小さな子は大喜びです。この日の成果は 24 センチの大きなエゾウグイ２、ウグイ４、エゾトミヨ 30 以上、フクドジョウ 50 以上。ニジマスが 1 匹見つかりましたが、これは野津幌川上流で放されたもののようです。ゲンゴロウ、ミズカマキリ、ヒラタカゲロウ、ヤゴ・・・水生昆虫もたくさん見つけました。

9月17日(土) 秋の森たんけんたい

森はそろそろ秋の準備ですが、今年の夏は長かったので、まだまだ川を楽しめます。上野幌東小学校の元気な男の子たちの参加もあり、にぎやかに出発しました。

前日仕掛けたドウにはフクドジョウ９匹、ウグイ１匹（9.4cm)がかかっていました。タモ網はフクドジョウ３匹でしたが、カワゲラ、ヤゴ、カワニナ、ヨコエビなど川の生きものがたくさん見つかり、みんなの目が輝きました。

川べりにはピンクの濃淡のミゾソバ、背の高いハンゴンソウ、オオアワダチソウ、エゾゴマナ、美しいけれど猛毒のトリカブト、風に揺れるキツリフネなどの花が咲き、東部緑地は秋の装いでした。

11月19日(土) 落ち葉の下には？

前夜から荒れ模様の天気で参加者が少なく、足元もぬかるんでいるので「ちょっとお散歩」に切り替えました。

葉を落とした木々の下で、ミヤマガマズミやオオカメノキの実が赤く色づいて目を引きます。朝方降った雪で、ツリバナの実は白い綿帽子をかぶったようでした。歩いているうちに雲の切れ間から日も射しはじめ、風雨を避けてどこかに隠れていた小鳥たちの声もあちこちから聞こえてきました。ちょっと寒かったけれど、初冬の森もなかなか良かったですよ。

● 平岡公園ツリーウオッチング

毎月１回の平岡公園･樹木観察会。９月･１０月は紅葉と木の実が中心です。今年は残暑が長引いて、紅葉は遅れ気味でした。

平岡公園で見られるカエデの仲間、赤はヤマモミジとハウチワカエデ、黄色系はエゾイタヤにベニイタヤ･･･じっくりと葉を見比べて、納得。ヌルデの鮮やかな赤や、コシアブラの半透明の黄葉も印象的でした。林床にはアクシバの可愛い赤い実が目立って、色々なキノコも顔を出していました。

今年はどんぐりが不作でしたが、サワシバ、ハクウンボク、ミヤマザクラ（シロザクラ)、ナツハゼなどの実は豊作だったので、種を採取して苗を育てることにしました。

● ふれあい空間「森のタネを育てよう」：平岡公園小

10 月 15 日（土） 昨年に引き続き、平岡公園小学校で『生態学的混播法』の紹介と、苗床やポット苗作りに挑戦しました。

森に行く時間がないので、前もって用意したタネやドングリと、実がなっている木の枝を観察しながら、みんな熱心に話を聞きました。

大きく広げた青いビニルシートの上に、火山礫・赤玉土・腐葉土を用意、その周りに参加する子どもたちと父母が集まります。３種類の土を良く混ぜ合わせ、小さなビニールポットに炭の小片と土を入れ、そこにクリやコナラの実を入れて土をかぶせ、軽く押さえて出来上がりです。発砲スチロールのトロ箱にはサワシバ、イヌエンジュ、ミヤマガマズミのタネを植えました。昨年タネを播いて発芽したミヤマガマズミは、株分けをしてポットに苗を植え替えました。出来上がったポット苗やトロ箱の苗床は学校の中庭に置かせてもらい、来春の芽吹きを待つことになりました。元気に育ってくれますように！

● 平岡公園ボランティア活動

１０月２６日 人工湿地の除草作業（ヤナギとシラカバ）を おこないました。湿地周辺のヤナギの成長は凄まじく、春に一度ヤナギを切ったのですが、そこから新たに伸びたたくさんの枝や幹が太くなっているのには驚きました。鋏やノコギリで枝を切り除去して、湿地の周りはすっきり、湿性植物への日当りが良くなりました。

● 平岡公園にぎわいフェスタ

10 月 1 日　当日は朝から雨降りで、開催できるだろうか？と心配しましたが、時間になると近隣の小学生や家族連れがつぎつぎと集まり、参加者は少なめとはいえ元気な顔が勢ぞろいしました（一般参加者 20 名、スタッフ 19 名）。「森のたんけんたい」は予定通りに出発しました。ウルシが赤く色づき始め、しっとりと雨でぬれた林床では色々な種類のキノコを発見。美しい姿をしているが猛毒のあるテングダケを間近でじっくり観察、探検リーダーの説明を聞きながらゆっくり秋の森を散策しました。

次は「みんなの公園づくり」、20 区画にアオダモ、ハルニレ、ナナカマド、サワシバ、ミヤマガマズミ、ハウチワカエデ、キタコブシ、ミズナラ、コナラなど 200 個の苗を植えました。混播法での植苗は初めてという人がほとんどでしたが、やり方を覚えると、あとは手際良くどんどん植えました。自分達が植えた木が大きくなったか、見に来るのが楽しみだねと話していました。

お昼は公園特製の豚汁をお代わりしてたくさん頂き、お楽しみ抽選会では、参加者が少なかったこともあり２回も大当たり！をゲットした家族もいました。

午後からは青空が広がり、「お魚いるかな？たんけんたい」はタモ網を手に元気に出発、小さなトミヨ類やヤゴ、ヨコエビなどの水生昆虫を見つけました。ちょうど、池と湿地の調査をされていたＳ氏が、フェスタに集まった子どもたちにドウを掛けて捕獲した魚を見せて下さいました。エゾホトケドジョウ、エゾトミヨ、イバラトミヨ、ドジョウなど珍しい魚を見て子どもたちも大人も興味深々、詳しい解説も聞きました。

「湿地のたんけんたい」は矢部先生と一緒に湿地に入り、生えている植物に触ってじっくり観察、詳しく説明していただきました。なかなか判別は難しいですが、たくさんの種類の貴重な湿性植物があります。３,４年前に試験的に植えた種が発芽していることを再確認、来年もさまざまな湿性植物が織り成す景観が楽しみです。

たくさんのボランティアの皆さんのご協力、ありがとうございました！

ニホンザリガニの棲める沢を残そう

● 工事完了後初めての調査

住宅地のすぐ近くの小さな沢に、絶滅を危惧されるニホンザリガニが多数生息していることがわかったのは数年前のことでした。その沢の上流部にかかる道路工事が平成１６年に完了し、新道が開通して１年になります。

私たち『平岡どんぐりの森』は、道路工事によるニホンザリガニへの影響を危惧して、工法･時期等について市の担当者との話し合いを重ね、一部のザリガニのレスキュー（移動）活動をおこなってきました。工事完了後は、沢の水流に若干の変化が見られ、下流部の池への土砂の流入がありますが、全体的には沢の状況は安定してきたように見えます。

１０月初めに札幌市の道路工事関係の方々と協力してニホンザリガニの生息調査をおこないました。４年前に実施した自然環境調査の手法を参考に、一定時間･区域でニホンザリガニの個体数を確認し、体長･雌雄などを記録しました。工事前の調査結果と比較して、生息状況に大きな変化がないかを調べようというものです。

今回の調査では短時間で予想以上の総数１３１個体を捕獲し、調査区域全般に成体の他、当年発生の個体を多数確認しました。これらのことから、この沢ではザリガニの繁殖維持が好適な状態にあると推測できます。

調査には札幌市から６名、どんぐりの森から６名の計１２名があたりましたが、ザリガニの生態に詳しい写真家のＨ氏も参加して下さったので、巣穴の見つけ方や生態について興味深い話をいろいろ聞くことができました。

札幌市内の住宅地に、ニホンザリガニの生息に好適な条件を備えたこんな沢が残されているのは貴重なことです。来年度からも、環境を荒らさないように注意しながら定期的な生息調査をおこなって、この沢を見守って行きたいと思います。

平岡公園人工湿地の今とこれから

矢部　和夫
（札幌市立高等専門学校　インダストリアル・デザイン学科　）

札幌市の原景観のひとつである湿原をつくろうという事業が始まってから、すでに５年が経過しました。６年目の今年、人工湿地がどのような状態かを明らかにし、今後の管理方針を打ち出すために生き物や環境の再調査を行っています。その結果はまだ十分にまとまっていませんが、まず報告したいことがあります。まず人工湿地の群落の景色は、自然な湿原の景色に近づいています。また自生している植物にも特徴が出てきました。絶滅の大変心配される稀少種として環境省や北海道が指定したレッドデータ種という生き物がいますが、植物の方では今年の調査で新たに見つかった３種を含めて６種のレッドデータ種がこの湿地に自生しています。魚類など動物も含めるとこの数はさらに増加します。

レッドデータ種を初めとするたくさんの希少種が人の管理の手を離れて自活し始めたということは、人工湿地の環境が安定してきて、自然のままの湿原の環境に近づいてきたことを示しています。5 年前の 2000 年の七月下旬に人工湿地基盤は完成し、最初の水を入れました。このときはヤシロールを全面に敷き、その上にでこぼこをつくるために、90*90cm で厚さ 10cm の座布団のようなヤシマットを 15m間隔で等間隔におきました。移植したごくわずかな試験植栽株以外に全く植物はありませんでした。当時のスコップ倶楽部の皆さんも、このあまりに人工的で無機質な景観を見て「本当に湿原が作れるのか？」と心配したと思います。皆さん、けげんそうな顔をしていました。

その年はイヌビエというイネ科の雑草がたくさん生えてきて、ボランティアの皆さんと手で抜きました。秋には、これも雑草のスカシタゴボウの小さな芽生えが無数に生えてきて、次の年にスカシタゴボウの畑のようになるのではと心配しました。しかし不思議なことに、翌 2001 年にはほとんど消えてしまいました。2001 年からは、勝手に生えてきた植物の中から、積極的に増やそうとするものとそうでないものを決め、特に大型で優勢なヤナギ類やクサヨシは湿原種の生育を阻害するので抜きとりました。また、近隣の湿原から種を取ってきて撒きました。外部からどの種を導入するかは、環境の調査結果をみながらこれまでの経験に頼って決めました。最初の頃は特にイグサ科のイ、クサイ、ハリコウガイゼキショウやヒライの生育が旺盛だったようです。また何回かは、近くの工事でつぶれてしまう湿原から、親植物も運び込みました。

このようなことを毎年繰り返しながら、人工湿地はどんどん湿原種で埋まっていき、レッドデータ種がたくさん自力で生えるようないい環境ができあがってきたようです。途中から、湿原からの排水が悪いために、予定した水位よりも高くなってしまいましたが、これも皆で議論し、できるだけ持続可能な対応ということで、火山礫を湿地の上に撒いて地面を上げて改善することにしました。火山礫入れは今でも少しずつ行っています。

この後は、いよいよ本物の湿原群落を再現するために希少種や貴重種を導入します。かつての石狩から絶滅してしまったようなたくさんの小型で弱々しい植物が、都市の真ん中で手軽に観察できる。そういう本物の湿原にしていきたいと願っています。（寄稿）

平岡どんぐりの森（代表　荒井美和子）
〒004-0033　札幌市厚別区上野幌３条５丁目１２－８　荒井方
Tel/Fax 011-896-0058

※平岡どんぐりの森は平成１７年度ボランティア活動支援事業助成金を受けています。